

飯田お練りまつり

◆ 外縣・大宮諏訪神社と式年祭

外縣（そとあがた）・大宮諏訪神社の式年大祭は、諏訪大社の式年造営（御柱祭）に合わせて行われています。諏訪神社の祭神は、建御名方命（たけみなかたのみこと）と妃の八坂刀売命（やさかとのみこと）。建御名方命は大国主命のお子様で、出雲から信濃へ渡られ諏訪を神居と定め、国土を開拓された神様です。桓武天皇の頃、坂上田村麻呂が陸奥の蝦夷征伐の途上、諏訪明神へ祈願をこめて奥州へ下ったところ、神助を得て蝦夷を平定出来たことに感謝し、桓武天皇に奉上して諏訪神社の社領を増やし、信濃の国に社殿造営を行うことを命令し、七年目毎に改造させる制を定めました。これが諏訪をはじめ当地方で行なわれている「御柱祭」の始まりと言われています。それに起源して申（さる）と寅（とら）の式年毎に諏訪では式年御柱祭が、飯田では神興渡御（みこしとぎょ）の式年大祭が行なわれています。大宮諏訪神社の神興渡御は、御札を神輿に乗せ、神様に飯田の治平と繁栄の現況を“視察”していただくための行列と言われています。

◆ お練りまつり

この大宮諏訪神社の式年祭礼に合わせて行なわれているのが「お練りまつり」で、大勢の人が街に出て練り歩いたことが名前の由来とされています。飯田城主脇坂安元侯により慶安5年（1652）に再興された祭りが式年大祭、お練りまつりの始まりとされ、脇坂侯の移封後五十余年の中断の時期もありましたが、正徳五年（1715）の未（ひつじ）満水の折、住民が大宮神社の神明様に加護を祈願したところ、幸いに飯田の町は泥の海となる難をまぬがれました。領民はその神徳をたたえ、享保四年（1719）に中断していた祭りを再興し盛大に奉納するようになったと言われています。その出し物も年代により趣好がこらされました。度々の火災で祭り屋台や道具の大部分を消失してしまいましたが、大名行列や東野の大獅子舞などが伝統を受け継いでいます。

【 大名行列 】 ～江戸時代の大名行列・参勤交代を思わせる～

飯田お練りまつりのメインの出し物である大名行列は、本町三丁目の出し物で、明治五年申年のお練りが初回。若州小浜城主、播州姫路城主、奥州仙台城主等の持物を入手したもので、様式は百万石の格式と称せられ、男持薙刀、白車熊槍、富士形槍などは国宝級の逸品である。行列の仕方、所作、芸は往時を継承しており、市街地を練る絢爛豪華な行列は徳川三百年の風俗を偲ぶことができます。

化粧傘が掛け声（※）をかけると、化粧傘の五色の紐が左右に振れ、総勢百名を超える足並みが一斉にそろう様は、ため息が漏れるほどです。

金の定紋をつけた「先箱」、「台傘」、白や黒の毛のついた長さ4メートルにもなる「黒車熊」、「天狗車熊」、「御弓持」、「鉄砲組」、「伊達道具」、「白車熊」、「富士形」、「大車熊」、「蓬莱大鳥毛」、「薙刀」、「徒士」、「お駕籠」、「腰元」、「茶匠」、「鷹匠」、諸道具を担ぐ人々が、江戸時代を思わせる衣装を身にまとい、行列が国許を出る時や江戸城内に入る時の所作を披露します。

大正八年に東京で举行された奠都五十年祭（市制三十周年）に招聘せられて天覧の光栄に浴し、当時の関係者から日本一の折紙付の文化財です。

（※）大名行列の掛け声

威張業途也：エーハリーワサートナー

威是業途也：エーコレワサートナー

威良業途也：エーヨーヤサートナー



【 東野大獅子 】 ～大きな獅子を宇天王が見事に操る～

飯田お練りまつりの華である「東野（ひがしの）大獅子」
重量 30 キロの大獅子頭による幌獅子舞です。
東野の獅子舞の歴史は古く、式年祭の始まりである 350 年
余前の飯田城主脇坂淡路守による遷官式年大祭の際、大宮
諏訪神社の宮本である現在の東野地区から田楽獅子を奉納
したことが起源であると伝えられています。



その後「東野大獅子」として登場したのは、明治四十一年から。
当時、獅子は籠であつらわれていましたが、大正九年に宇天王（うてんのう）の衣装をはじめ、新しく木製の獅子頭
をつくりあげました。出来上がった獅子頭は、重量八貫目（約 30 キロ）、大きさは高さ 2 尺、横巾 2 尺一寸と大変立
派なものとなりました。

この頭は昭和四十九年まで舞い、現在は永久保存として飯田市美術博物館に展示されています。その後昭和五十五年
から二代目として、初代の頭と同じ重量・大きさを引き継ぎ今に至ります。

我が国の能の原典と言われる宇天王の優美華麗な舞、雄壮豪快な頭、妙技な笛大鼓の調べが三位一体となって織りな
す一大絵巻は郷土芸能の圧巻。

東野大獅子は、はじめ眠っています。舞は宇天王（王様）が手綱を引っ張り、眠りを覚ます「大門口（おおもぐち）
の舞」から始まり、他に「道中起しの舞」「古所望まだかの舞」などがあります。大獅子を起こして寝かせるまでを
舞う獅子舞は全国に例がない東野大獅子独特のもので、専門家からは日本一の折紙を付けられています。

【 参加予定団体 】 (平成 28 年 1 月 26 日現在 47 団体)

飯田銀座次郎長道中実行委員会 「銀座次郎長道中」	北方獅子舞保存会 「北方獅子舞」	羽場獅子舞保存会 「羽場獅子舞」
山本南平獅子舞保存会 「山本南平獅子舞」	命響館(飯田市山本) 六尺太鼓「命響」ほか	座光寺八木節保存会 「座光寺八木節の囃子と踊り」
下殿岡獅子舞保存会 「下殿岡獅子舞」	阿智黒丑舞保存会(阿智村) 「阿智黒丑舞」	満嶋掛け太鼓保存会(天龍村) 「満嶋掛け太鼓」
橋北屋台獅子保存会 「橋北屋台獅子」	信州睦天龍(高森町) 「どっこい御輿渡御」	上山獅子舞保存会 「上山獅子舞」
芸能伝承 今昔小町の会 「飯田奴音頭」「飯田をどり小唄」他	知久町通り連合会 「信州御代田龍神太鼓・鼓響」	下山獅子舞保存会 「下山獅子舞」
切石獅子舞保存会 「切石獅子舞」	駄科下平獅子保存会 「駄科下平獅子」	天龍峽龍神の舞保存会 「天龍峽龍神の舞」
上殿岡獅子舞保存会 「上殿岡獅子舞」	一色獅子舞保存会 「一色獅子舞」	鼎中平獅子舞保存会 「中平獅子舞」
鼎上茶屋獅子舞保存会 「上茶屋黒獅子舞」	上黒田獅子舞保存会 「上黒田獅子舞」	片桐町長持保存会(松川町) 「片桐町長持行列」
代田獅子囃子保存会 「獅子舞」「稚児踊り」	河野大宮神社獅子舞お囃子保存会 (豊丘村) 河野大宮神社獅子舞	名古熊獅子舞保存会 「名古熊獅子舞」
大洲七相神社奏楽保存会(松川町) 「七相神社獅子舞・おかめ踊り」	上中村獅子舞保存会 「上中村獅子舞」	中央通りお練りまつり実行委員会 「天龍太鼓」
龍江一区大獅子保存会 「龍江一区大獅子」	加々須獅子保存会(喬木村) 「加々須獅子舞」	牛牧区義士踊り保存委員会 (高森町) 「牛牧義士踊り」
新田虎舞保存会(高森町) 「新田虎舞」	豊丘村福島春日神社(豊丘村) 「春日神社獅子舞」	阿島獅子青年(喬木村) 「阿島獅子舞」
麻績神社若連中 「麻績神社獅子舞」	木賊獅子保存会(阿智村) 「木賊獅子」	心鼓毬 彩(高森町) 和太鼓
寺所獅子保存会 「寺所獅子舞」	韓郷神社獅子舞保存会(喬木村) 「小川獅子舞」	山田河内神明社お囃子獅子保存会 (下條村) 「山田河内獅子舞」
駄科南平獅子保存会 「駄科南平獅子舞」	鹿塩郷土芸能保存会(大鹿村) 「鹿塩獅子舞」	上村中郷獅子舞保存会 「上村中郷獅子舞」

※作成協力: 飯田観光協会 飯田商工会議所